

桜 だより

鹿児島大学病院広報誌



模擬患者を使ったトレーニング

45号
2017.4

てんかんの医学的・社会的な克服を目指して
てんかんセンター

てんかんの医学的・社会的な克服を目指して

てんかんセンター

予 約 制

てんかんセンター代表受付(脳神経外科外来)
てんかん専門外来、ないしは状態に応じて適切な担当科の外来を案内します。
現在診療を受けている病院・医院からの紹介状をご持参ください。

電 話 番 号

099-275-5828

受 付 時 間

8:30~11:00

診 療 時 間

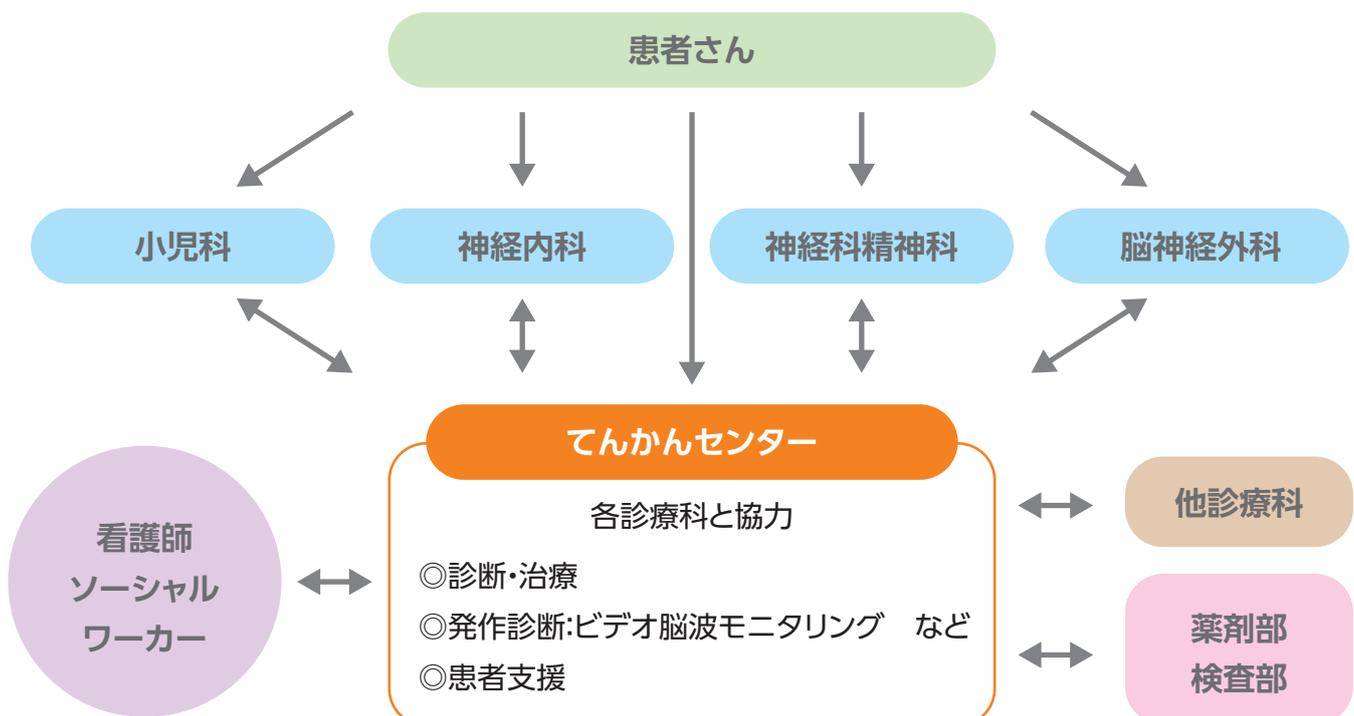
9:00~15:00

てんかん専門外来

成人 初診・再診 木・金曜日 (脳神経外科外来)
小児 初診・再診 月・水曜日 (小児科外来)
てんかん専門医4名 (うち指導医2名)

はじめに

てんかんはすべての年齢層で生じ、日本には約100万人の患者さんが存在する頻度の高い病気です。複数の科がそれぞれに担当しているてんかんの診療体系を明確にし、包括的なてんかん診療体制を作るために、鹿児島大学病院では2013年3月に全国でも早い段階でてんかんセンターが設置されました。患者さんの70-80%は適切な薬を内服することで発作の抑制が可能ですが、治療を受けてもなかなか発作が止まらなかったり、症状はあるがてんかんかどうかははっきりしない方もいらっしゃいます。てんかんセンターでは、こうした診断や治療に難渋している患者さんの診療を行っています。



子供から大人まで、診断から外科治療まで

神経内科、精神科、小児科、脳神経外科など、てんかんの診療を担当する診療科は多岐にわたります。てんかんセンターでは、てんかん専門医の医師がまず窓口となります。おおよそ中学校までは小児科、それ以降は成人科が担当し、難治例については合同のカンファレンスで検討を行います。また、必要に応じて、患者さんの年齢や病状に合わせた診療科に診察や治療を依頼しています。

手術で改善が期待される難治例では、外科治療についても積極的に行っています。てんかん焦点の切除や発作波の広がり抑制する遮断手術などの開頭術だけでなく、近年では迷走神経刺激術も導入され、外科手術の適応となる患者さんは増加しています。当院は都城市の藤元総合病院と連携して、南九州で唯一てんかんの外科治療を行う治療グループを形成しています。特に乳幼児に生じた難治性てんかんでは、てんかん発作が発達や成長に及ぼす影響を考慮して、外科治療の適応について早い段階で検討をしています。



てんかんカンファレンス



てんかん外科手術

てんかん診断・治療の進め方

発作症状の聴取

- 発作が始まる様子
- ◎意識消失の有無
- ◎眼や頭や体の動き
- ◎発作の持続時間
- ◎発作後の意識状態 など

外来検査

- 脳波検査
- 必要に応じて
- ◎MRI/CT検査
- ◎心理検査
- ◎核医学検査(SPECT/PET)
- ◎脳磁図

入院検査

- 長時間ビデオ脳波同時記録
- 必要に応じて
- ◎Wadaテスト
- ◎心理検査
- ◎核医学検査

入院治療

- ACTH療法やケトン食療法
- 外科治療

ビデオ脳波モニタリング

てんかんの診断に際して、実際に発作を見て診断することはまれです。ほとんどの診断は、発作が生じた時の状態について問診をしたり、発作が生じていない時の脳波やMRIなどの検査を通して行います。治療を行っても発作が止まらない場合には、診断が正しいかどうか再検討する必要があります。長時間ビデオ脳波モニタリングは、脳波を持続的に記録し、同時に行動をビデオでとることで、発作時の脳波と症状とを同時に確認します。発作の回数にもよりますが、入院の上で5日間ほどの検査を行います。発作頻度が高い小児などでは2-3日で終了できることもあります。この検査により、発作症状がてんかん性かどうか、てんかんであればどのようなタイプのものであるかの診断が可能となります。一方で、一定の期間中に発作を記録する必要があるため、発作の回数が少ない場合には検査の対象となりません。

長時間ビデオ脳波モニタリング

〈記録〉



24時間から5日ほどかけて持続的な脳波検査を行い、同時にその間の様子をビデオに記録します。

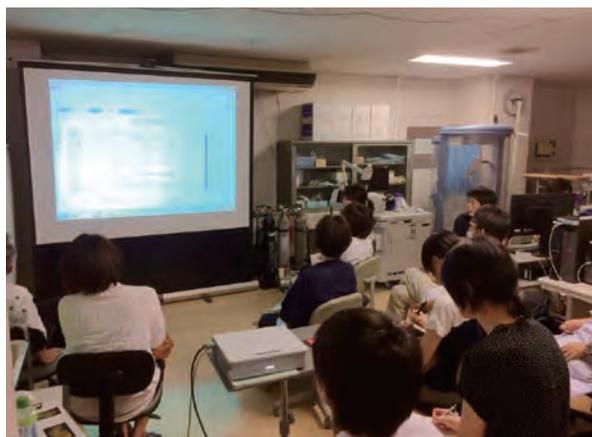
〈解析〉



脳波とビデオに記録した行動とを合わせて検討することで、発作がてんかん性か、そうであればどのような発作かを確認します。

多職種共同によるてんかん診療

てんかんの治療を進めるにあたっては、医師だけではなく、看護師・薬剤師・臨床検査技師・ソーシャルワーカーなど、多くの職種との協力や連携が必要です。鹿児島大学病院でも、長時間ビデオ脳波モニタリングを行う病棟の看護師は、医師や外部講師による勉強会、発作時のシミュレーション、発作時対応マニュアルの作成などを通して、検査がより良く行えるように研鑽を重ねています。また、臨床検査技師は医師との脳波判読会を毎月行い、異常所見の確認、検査の目的や治療経過などを共有することで、より適切に検査が行えるように技術の向上に努めています。こうした内容については、毎年行われている全国てんかんセンター協議会で発表や報告を行い、それぞれの職種でさらなるレベルアップを目指しています。



近隣施設からの参加者も含めた、
医師と臨床検査技師による脳波カンファレンス



病棟看護師による全国てんかんセンター協議会での発表

地域全体へのてんかんに対する意識の向上

てんかんを持つ患者さんは鹿児島県内に限っても1万5千人程にのぼると推定されます。その中には、本来は積極的な治療が必要でありながら、見過ごされがちなてんかん発作もあります。患者さんはもとより、周りの方も含めて、発作に慣れない、そのままにしない、という意識が大切です。また、それだけの数に上る患者さんを専門施設や限られた専門医だけで診療を行うことはできません。診断がついたり、治療方針が決まった患者さんは、それぞれの居住地で治療を継続していただくことも必要です。そのため、各地域で治療を受けながら、困った時にはセンターや専門医のいる施設へ相談できるような環境づくりを積極的に進めています。

また、地元で治療を受ける場合に、てんかんであることを公にしづらいという状況がまだまだ見られます。こうした現状を改善し、安心して地域で治療を受けることができるように、てんかん協会鹿児島支部の方々と共に、県内各地でのてんかん啓発活動にも積極的に取り組んでいます。



パープルデーは世界各国で行われる、「てんかん」の啓発キャンペーンです。毎年3月26日に、紫色の物を身に着け、てんかんへの関心や意識を高めるための活動が、世界中で行われています。



鹿大病院活き活きボランティアの紹介

鹿児島大学病院では平成10年よりボランティアによる活動が始められました。現在、男性2名・女性15名の計17名で、活動を行っています。

患者さんの病院生活をより豊かなものにするため、また気持ちに寄り添った活動ができるよう、ボランティア活動員みなで力を合わせて頑張っています!



ボランティアリーダーの声

娘がきっかけで出会ったボランティア活動。少しでも誰かの役に立てたらとの思いで始め、早いもので18年目となりました。

活動内容としましては、再診受付や車椅子の患者さんのお手伝い、入院患者さんの病棟への案内などになります。時には、カウンターに季節ごとの折り紙や花を飾ったりもしています。

介護や孫の世話をしながらで大変な時もありますが、ボランティアは私の生きがいです。これからも続けていきたいと思っております。

福祉功労者表彰を受賞しました!

平成29年2月10日に鹿児島市社会福祉協議会において「平成28年度鹿児島市社会福祉協議会福祉功労者表彰式」が行われ、鹿大病院活き活きボランティアが福祉功労者表彰を受賞しました。

鹿大病院活き活きボランティア活動募集

当院では、外来及び病棟における患者さんのお世話などをしていただくボランティア活動員を常時募集しています。

月曜～金曜日(祝・休日は除く)の午前8時30分から午後5時までのうち、ご都合のつく曜日と時間帯で活動できます。希望により毎日でも週1回でも構いません。

《主な活動内容》

- 自動再来受付機の操作説明、補助
- 車椅子患者さんの介助や診療科への案内・誘導
- 車椅子の点検、カート等の整理
- 子供の患者さんに対するサービス(本読み、レクリエーション等)

お問い合わせ先

医務課医療相談係 TEL:099-275-5156、5157

早春の桜島。私は家族を伴って、桜島の南側をボートで疾っていました。この季節、ミナミハンドウイルカの群れが桜島の南側に集まるのです。

将来はクジラやイルカの調査の仕事がしたいという長女、高校受験の合格発表を待つ長男、そして中学生の次男。3人をボートの前に乗せて走っていると、ほんの数年前までは、小さく、船の舳先に3人並んでキャアキャアと歓声を上げていたのに、今はそれぞれに別の場所に座り遠くを見つめながら、でも期待に満ちた目で水平線にイルカの影を探しています。

私は5年半前に大きな事故に遭い、下半身が不自由になりました。昔は子供たちを抱いて、ボートに乗せていたのを、今は逆に長男に抱えられて船に乗り込みました。皆それぞれに遅く、大きく成長したものです。

そんなもの思いに耽りながら、桜島の南側を東へと進んで行くと、桜島南端の観音崎を過ぎたところで、思いがけずハセイルカの群れを見つけました。ナイーブなハセイルカたちを刺激しないように、斜め後ろから静かに近づきました。すると突然、「ブシュッ!」という大きな呼吸音とともに、ハセイルカの100頭近い一群がボートの周りの波に乗ったり、舳先で戯れ始めました。私は、慎重にボートの

スピードをコントロールし、彼らに飽きられないように、時には小さく旋回したり、スピードを上げたりしました。

ハセイルカの群れは一気にボートの周りにぐっと集まり、素晴らしい跳躍を見せてくれました。ボートの上は歓声の渦です。

私は、ボートの周囲のハセイルカの跳躍を眺めながら、新しいスタートを切っていく子供たち、そして世の中のすべての人々に、ハセイルカのような素晴らしい飛躍を願わずにはいられませんでした。



小型の外洋性のイルカ、ハセイルカ。この姿を頻繁に見ることができるのはこの錦江湾だけなのです。(全長1.5m)

Topics

鹿児島大学病院が瀬戸内町と包括連携協定を締結

鹿児島大学病院と瀬戸内町は、2月15日に鹿児島大学病院において、包括連携協定締結式を執り行いました。

式では包括協定の概要説明があり、引き続き、鎌田愛人瀬戸内町長と熊本一朗病院長による協定書への署名が行われました。

この協定は、医療、学術、教育を根幹に連携協力し、相互の発展と、未来に希望が持てる社会を築くことを目的としています。

挨拶では、鎌田町長から「瀬戸内町で行政、医療機関や住民が一体となり進めている高齢者を見守るネットワークづくりに協力をいただきたい」と期待が述べられ、熊本病院長からは「地域医療を守るのは大学の使命であり、離島での医療福祉を支える人材育成にも努めていきたい」と抱負が述べられました。



左から、
鎌田愛人瀬戸内町長と熊本一朗病院長



列席者記念撮影

表紙の写真

「シミュレーションによる発作時対応トレーニング」
長時間ビデオ脳波記録中に発作が生じた際に、より良い対応ができるように、病棟看護師は模擬患者でのシミュレーションを行っています。

鹿児島大学病院広報誌 桜ヶ丘だより〈45号〉

2017(平成29)年4月発行 発行/鹿児島大学病院広報委員会広報誌編集部
〒890-8520 鹿児島市桜ヶ丘8丁目35番1号 TEL 099-275-6692
<http://com4.kufm.kagoshima-u.ac.jp/>

* 平成28年10月1日付けで、病院名称が鹿児島大学医学部・歯学部附属病院から「鹿児島大学病院」に変わりました。